

「松山島博覧会 (しまはく)」の 取組み

松山市総合政策部
企画政策課
副主幹
田中 傑計



「しまはく」では…

「島を元気にしたい」そんな思いから、この「しまはく」は生まれた。過疎化、高齢化、少子化が急激に進む松山市の島嶼部において、基幹産業であるかんきつ栽培などの農業や漁業の活性化を目指し、平成22年の春から秋にかけて「松山島博覧会(しまはく)」が開催される。

「しまはく」は、松山市の沖合いに点在する忽那諸島など有人9島(睦月島、野忽那島、中島、怒和島、津和地島、二神島、興居島、釣島、安居島)と無人の鹿島を含めた10島を中心に、高浜・三津浜・北条

港なども舞台となる。4月のオープニングイベントを皮切りに、中間イベントやクルージング、島独特の農漁業体験や島に伝わる伝統芸能、島民の方の新たな発案によるイベントなどを行う。

「しまはく」の舞台となる島や港を訪れる大勢の人に、島での様々な体験を通じて、豊かな自然と美味しい食べ物、独特の文化や歴史といった島特有の魅力を知っていただき、楽しんでもらい、島の活力を再生するのが目的である。

松山市の合併後のまちづくり

「しまはく」開催の背景には、平成17年1月に松山市と北条市、中島町が合併し、多くの離島が加わり島嶼部の魅力がさらに増したことがある。松山市にとって、合併後の都市部と島嶼部が共生する新しいまちづくりは重要課題である。

その一方で、過疎化、高齢化による人口減少の歯止めはかからず、島の農漁業は厳しい状況が続いている。このため、住民主体のまちづくりのための研究会「みんなのまつやま夢工房」において、島嶼部の活性化をテーマに各島民の方を含む様々な分野の関係者により、島の活性化策について議論が交わされた。この「夢工房」から生まれた案の一つに「しまはく」があったわけである。

この提案を契機に島民の気運が高まり、各島の住民代表や農協、漁協、その他関係者などをつくる「松山島博覧会実行委員

会」が平成20年12月に設立され、「しまはく」へ向けた準備がスタートした。

平成21年度は試行期間「プレしまはく」と位置づけ、昨年7月～12月に各島々で海を舞台にしたイベントや地引き網、ミカン狩りなど、島の自然とふれあえる多彩な体験メニューを創りあげてきた。

実行委員会としても、このイベントや体験メニューを構築する活動に対し、その立ち上がり支援として事業費の一部を補助する制度を設けサポートし、松山市も実行委員会の事務局として、各島部会や体験メニュー構築のための会合に参加し助言等を行うなど、島民の方々との協働でこの「しまはく」を進めている。



いきな睦月の海祭り(地引網)

まつやま農林水産物ブランド
「ぼっちゃん島あわび」



島での取組み

一つの例が興居島である。興居島では実行委員会設立以降、毎月のように島の部会が開かれ、島内各地域の関係者が集まり、「しまはく」でどうしたら自分たちの島を盛り上げていけるか、熱い議論を交わしている。もちろん何事もなく進んでいるわけではない。関係者は高齢者が多く、島ならではの課題もたくさんある。しかし、今までこれほど多くの人が島の魅力を発信しようとして真剣に話し合ったことはなかったのではないかと。その甲斐あって「プレしまはく」では、「ごしま海物語」や「薪船踊り」など、島の特徴を活かしたイベントが開催された。さらに、それに刺激されて個人の体験メニューの構築にも拍車がかかっている。もう一つは中島である。島のみかんやまつやま農林水産物ブランド「ぼっ



「忽那水軍カレー」デビュー



「ビューティー&ヘルシー」
in 野忽那島 (たご釜飯)



「ビューティー&ヘルシー」
in 野忽那島 (ところてんづくり)

「ぼっちゃん島あわび」を使用したご当地カレー「忽那水軍カレー」の開発など、島の食材を活用した新しい商品や体験メニューの構築である。新たな商品開発や流通の仕組みづくりは、島民の方々のやる気を起こし、基幹産業も活性化させることができる。

平成22年度の本番に向け、島民自らが自由な発想のもと、一過性で終わらせない継続性のある取り組みとして進めていくため活動を行っている。

「しまはく」の
目指すもの

これらの取り組みは、他の先進地域に比べればまだまだ始まったばかりで手探り状態であり、PR不足や本業との両立、受け入れ態勢の充実など



島の宝100景 (興居島の船踊り)

課題は多い。島ごとの考え方の相違や住民同士の温度差などもある。しかし、各島々ではそれぞれの特徴を活かしたメニューが一步ずつ着実に形になりつつある。他のイベントと同様、島での人とのふれあいは、島嶼部の魅力を再確認していただけるとともに、交流人口の拡大や収入増にもつながる。

「しまはく」開催を契機に、住民が結集して新しいことにチャレンジし、終了後もこの取り組みを継続させることができれば自信や強みになり、若い人にも魅力のある島となって、人口減少に少しでも歯止めがかかるに違いない。

松山市では、小説『坂の上の雲』を軸としたまちづくりが進み、幸いにもスペシャルドラマ「坂の上の雲」の放映も始まり、その魅力を全国へ発信する絶好の機会となった。観光客は道後温泉や松山城を訪れ、「坂の上の雲のまち」を体感するとともに、松山の島嶼部の魅力、ありのままの心地よさにもふれあうことになる。島の豊かな地域資源と温かい人情は、必ずや訪れる人の心にしみわたるであろう。